走れ！きぼうGO　No.4

たかつきライブラリーフレンズ（TLF）
２０１９年３月２２日発行

春は別れの時であり、新たな出発の時ですね。私たちが休止中と聞き、復活を願ってきた、大事な移動図書館＜きぼう号＞は、突然姿を消しました。
どこにいったのでしょう？　どこにも見当たりません。
ワニくん、元気？　どうしているのかな？みんなが本を待ってるよ！
さあ、みんなでしゅっぱつしんこう～♪

きぼう号はどこに？

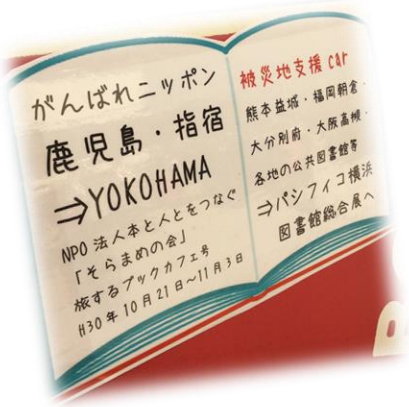
会報　No.４　目次

Ｐ２　　ブックカフェそらまめ号　ようこそ高槻へ！
Ｐ３　　ブックカフェそらまめ号　各地区からの報告
Ｐ４－５　「図書館を知ろう！」連続講座　第３回　飯田寿美氏 講演会　報告と感想
Ｐ６―７　「図書館を知ろう！」連続講座　第４回　猪谷千香氏 講演会　報告と感想
Ｐ８　　「こんな本いかが？」「まちかどニュース」　など

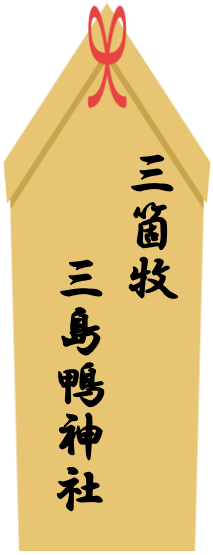
おりこみ特集「地域の声」もぜひご一読ください。

昨秋、鹿児島の指宿から「ブックカフェそらまMEN号」がたくさんの絵本などをのせて、震災地である高槻に途中、立ち寄ってくれ、三地区で楽しませてくれました。

そらまめの会のロゴマーク！



代表の下吹越かおるさん



若いママたちの知恵とパワーが素晴らしく神社境内がバザーのよう。コーヒーがあるからとパン屋さんが子ども用の可愛いパンを販売して、保育所２つ、学校１つの子ども達先生達で賑やか。キャンプ用テーブルが並び、会場提供してくれた神社の宮司さんがパイプ椅子の補充などしてくださり、かおるさんの鹿児島弁の紙芝居や南京玉すだれや出し物などを満喫。なんと言っても子どもたち、本が大好きです！

樫田地区

ブックカフェ号の様子は、ケーブルテレビでも放映されました。地震台風の被害が大きい樫田地区への訪問が取材され、クラウドファンディングでブックカフェ号の運行を実現させた NPO 法人本と人とをつなぐ「そらまめの会」代表下吹越（しもひごし）かおるさん（指宿図書館館長）へのインタビューもありました。

あっという間にむらがって、読みふけるこどもたち♪

かおるさんの鹿児島弁紙芝居は絶品♡
「あいがとさげもした～♡」

上牧・五領地区

地域に図書館設立を切望する上牧五領地区。きぼう号までストップしてしまったため、この日を待ちかねていました。
本を囲んで地域のみんながつながる広場がほしいですね。

連続講座 「図書館を知ろう！」盛況！ご参加ありがとうございました。

今年度、高槻文庫連絡会主催「図書館を知ろう！」連続講座にゆめ基金活動助成がおり、たかつきライブラリーフレンズ（TLF）は、この4回連続講座を全力的にバックアップ！ 大盛況で、無事終了しました。ご参加有難うございました。

図書館を知ろう！連続講座　2018年度

① 7月21日(土)　垣口弥生子氏 「日本の図書館・地域の図書館」
② 8月18日(土)　鎌倉幸子氏 「本でよりそう復興支援」
③ 11月24日(土)　飯田寿美氏「学校図書館って何ですか？」」
④ 2019年2月17日(日)猪谷千香氏「未来につながる図書館のために」

2018年11月24日（土）　飯田寿美氏講演会
「学校図書館って何ですか～子どもたちの学びのために～」

高槻市生涯学習センター第二会議室

パワーポイントのアニメーション効果を巧みに使ったわかりやすい講義内容は、目からウロコ、なるほどなぁ！と納得の連続でした。
こんな司書の先生がおられたら、学校図書館がどんなに素晴らしい学びの場になるでしょう！

1、「本と私たち」

～人類の最先端であるあなたには、人類の知恵のかたまりである本を使って、育てて、次の世代に伝える責任があるのです～

2、「よい本」って何ですか？

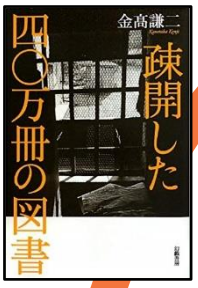
松岡享子氏の言葉：　百人百様の好奇心を満たす　百人百様の本がある。
読むための条件　：　資料　時間　余裕　自由　力　そして　読みたい気持ち（好奇心）
大人にできること：　読書環境を整えること。

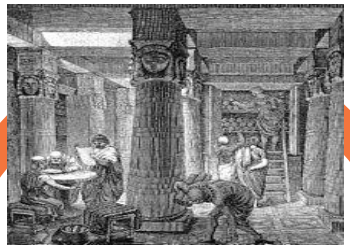
3、 図書館とは何か？　図書館　求める人へ求める資料を提供することが仕事＝民主主義を支えるインフラ。
焚書：歴史上たびたび本は燃やされてきた。時空を超えた文化としての書籍は、命がけで守るほどの価値がある。

4、 学校図書館とは何か？

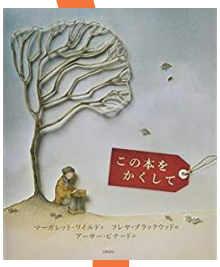
1953年学校図書館法成立。教科書を教える教育から、教科書で教える教育へ　⇒　学校に「なくてはならない」
ユネスコ学校図書館宣言。
学校図書館の使命：情報がどのような形態あるいは媒体であろうと、学校構成員全員が情報を批判的にとらえ、効果的に利用できるように、学習のためのサービス、図書、情報資源を提供すること。【当日レジュメより】

飯田先生の講演会での紹介書籍や映画





読書会や鑑賞会などいかがでしょうか。



塩見先生の著書からは「学校図書館の「教育力」として７点引用。

① 多様な学習資源の選択可能性
② 体系的、組織的なコレクションの存在
③ サービスとしての相談・援助の仕組み
④ 図書館ネットワーク　組織性の具備
⑤ 資料・情報の再構成と発信、交流
⑥ 知的自由・プライバシーの尊重
⑦ 生涯学習者の育成

【感想アンケートより】

〇小学校図書館支援員をしています。自分のやっている仕事が特に何の意味もないのか、どんなことをしたら必要としてもらえるのか、考えていますが、それが将来ある子どもや子どもたちに何かを与えられたりすることにつながっていると思うと涙がでました。

〇本のある世界、図書館の大切さを痛切に感じました。学校にも地域にもたくさんほしいですね。

〇深い深い本そのもの存在を考えさせられて思わず涙しました。図書館の大切さも。大人として、司書ではありませんが、子どもたちと(語り手として)伝えてゆきたいこと、子どもたちの心に寄り添うことなど大切にしていきたいと思ううえで、とても有難い視準を頂きました。

〇中学校の読書活動協力員をしています。やれることから実現していきたいと思いました。まずは、横のネットワークをもつよう、働きかけていきます。そして、どうすれば　学校(先生方と)共に考える場をつくれないか問題提起していきたいなと思いました。

〇学校に図書館があったかどうか思い出せません。図書館の役割がこんなに人間にとって、人間の成長にとって、大きなかかわりがあるのかと気づかされました。

〇本の成立から本の力！そして、関わる司書　(伝達)教わること、教えること等　大変ためになるお話、お時間でした。

〇とても勉強になりました。学校図書館について、仕事のイメージが希望を持ってはっきり描けた気がします。

‘書架の教育力‘を目指したいです。

2019年2月17日（土）　猪谷千香氏講演会
「未来につながる図書館のために」
高槻現代劇場市民会館２０７号室

猪谷先生の主著書

昨年９月の予定が、台風のため延期になり、首を長くして待っていた猪谷千香さんをようやく高槻にお迎えすることが出来ました。先生は図書館や地方自治について取材を続ける他、「母の友」に育児エッセイ連載など文化・社会視野において、多岐にわたるご活躍です。会場いっぱいの参加者で、著書を並べた展示コーナーも賑わいました。

「最近、図書館がかなり変わっています」の見出しからはじまり、

２０１５年８月にオープンした富山市立図書館の木のパイプオルガンのような建物内部の映像が映し出され、その壮観に会場から感嘆の声が聞こえました。

この日、映像で紹介された話題の図書館は次のとおり。

1.伊万里市民図書館（1995） 市の直営。設計段階から市民の声をヒアリング。市民ボランティア 400 人以上が活動。ボランティアの旗印は「協力」と「提言」。

2.富山県・舟橋村立図書館（1998.4） 村の直営。人口増加率が県内１位。駅舎と図書館が併設。

3.島根県・海士町「島まるごと図書館構想」（2010） 町の直営。財政破綻寸前だった島。「人材育成には図書館」という町の方針で、2007 年から島内12カ所に図書スペースを設けて貸出。

4.指宿市立指宿・山川図書館（2007 指定管理） NPO 本と人をつなぐ「そらまめの会」による運営。

5.武蔵野プレイス（2011） 地域の課題を解決する複合施設（図書館、市民活動支援、生涯学習支援、青少年活動支援）。

6.岩手県・紫波町図書館（オガールプロジェクト 2012～2017） 補助金に頼らない公民連携で駅前町有地を開発。図書館はコミュニティの場に。

7.沖縄・恩納村文化情報センター（2015.4） 沖縄有数のリゾートにある複合施設、観光客が滞在する図書館。

8.ぎふメディアコスモス（2015.7） 複合施設。ホール・スタジオなどを併設した「滞在型図書館」（伊東豊雄設計）。

9.富山市立図書館（2015.8） 「コンパクトシティ」の中核施設。図書館は3～6階、ガラス美術館は2～6階。富山第一銀行は１階および7～１０階。<隈研吾設計>

10.瀬戸内市民図書館もみわ広場（2016） 指定管理ではなく自治体直営を選択。図書館づくり市民ワークショップ「持ち寄り」「見つけ」「分け合う」（もみわ）

結びに、鎌倉市図書館の上記ツイート（2016）を紹介。

「もうすぐ二学期。学校が始まるのが死ぬほどつらい子は、学校を休んで図書館へいらっしゃい。」

家庭・職場・学校ではない「第三の場」としての図書館 が共感を呼んだ。

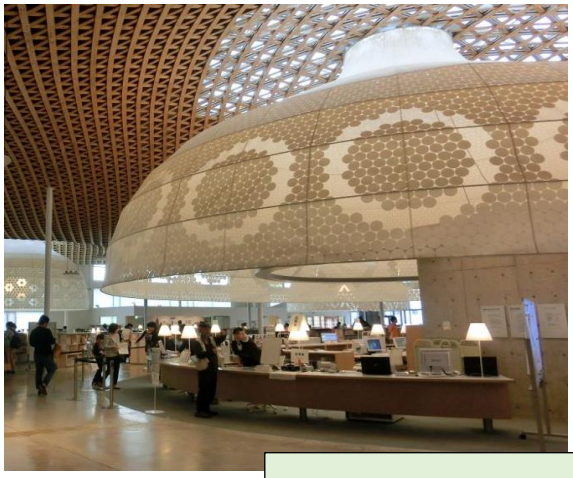
市民と強く「つながる図書館」 が来たるべき未来の図書館ではないか、と提起されました。

猪谷氏　当日紹介の図書館画像より

舟橋村立図書館

図書館を越境する図書館

武蔵野プレイス



ぎふメディアコスモス

富山市立図書館

瀬戸内市民図書館もみわ広場

恩納村情報センター

【参加のみなさんからの感想より】

・複合施設化というのが図書館が進んでいくひとつの道ならば、教育委員会だけでは確かに改革していくことは難しいかなと感じた。

・時代によって、地域によって、住民のニーズも違ってくると思う。図書館というものに対する考え方も固定的ではいけないんじゃないか。

・魅力ある図書館がいくつもあるのに驚いた。こういう図書館がほしい！というものを自分たちが持つことが一歩かと思った。

・「サードプレイス」――これからますます大切な場所になると思う。

こんな本読いかが？

高橋樹一郎著『子ども文庫の 100 年――子どもと本をつなぐ人びと』みすゞ書房　2018 年

2001 年から 2004 年にかけての全国の子ども文庫の実態調査報告が主ですが、高槻にも子ども文庫があり、図書館と連携してきたのが「文庫連絡会」です。

1960 年代あたりから日本では女性を中心に私設図書館といえる「家庭文庫」、「地域文庫」が図書館を補完するようにでき、それらが核となり読書運動や図書館づくりの力になりました。地域において「子どもと本を結ぶ」この働きは明治時代からあったそうです。人は本のある居場所を求めていたことがわかります。時代とともに進化していく「本のある居場所」という文化の有り様に感慨を覚えます。

まちかどニュース

手遊び歌・創作者の河村さん、新聞掲載

♪大阪にはうまいもんいっぱいあるんやで～♪
この楽しい手遊び歌の作詞者は、高槻島本人形劇連絡会代表の河村和代さん。わが TLF の世話人でもあります。彼女が、20 年前につくった手遊びが伝え歌われ、現在に至っています。
2019 年 1 月 24 日（木）朝日新聞「関西遺産」に掲載されました。

来たる４月２８日（日）
れんげマーケットにてブックカフェオープン！

三島鴨神社でまたブックカフェをやりたい！と地元ママズがワクワク企画中。みんな行ってみようー！

TLFのフェイスブックページ更新中！
情報満載！ 全国の図書館の仲間とつながりましょう！
https://www.facebook.com/kibougo/

2019 年3月22日　発行
編集・発行　たかつきライブラリーフレンズ（TLF）
高槻市月見町7−30　廣田方　事務局　垣口・角所・森井
coire2004@hotmail.com